



Joetsu symphony orchestra

# 上越交響楽団 第54回・定期演奏会

吉井俊哉

指揮

会場

上越文化会館 大ホール

日時

2003年8月24日(日)

■13:30開場 ■14:00開演

主催

上越交響楽団





# ■プログラム Program Music description

## オネゲル 夏の牧歌

Arthur Honegger  
Pastorale d'Été

### ■オネゲル:夏の牧歌

オネゲルが28歳、1920年の夏にベルナー・オーバーラント地方の景勝地、ベンゲンで作曲されました。フランスの作曲家ローラン＝マニユエルに献呈されたこの曲は、1921年2月の初演時の際、聴衆による人気投票で第1位に選ばれ、ベエルレイ賞を受けた作品でもあります。のどかで、どこまでも広がる清浄な空間、緑の絨毯から白い雪と氷河に彩られた山と鮮やかなスカイラインを形成する空の青という、見事なコントラストを、ゆったりとした前後の音楽とそれに挟まれた動きのある部分で、実に巧みに表現しています。近代作曲家にあつては、作曲技術の誇示や、新しい語法の探求に重きをおくのではなく、ロマンの溢れる作風が印象的なオネゲルの作品の中でも特に穏やかで美しい作品であると評価されています。

## ドビュッシー [ビュッセル/編曲] 小組曲

Claude Debussy  
[Orchestration/Henri Büsser]  
Petite suite

1. 小舟にて En Bateau
2. 行列 Cortège
3. メヌエツ Menuet
4. バレエ Ballet

### ■ドビュッシー(ビュッセル編曲):小組曲

この曲はドビュッシーのかなり初期に作られた4曲からなる組曲です。そのせいか、伝統的なスタイルで書かれており、爽やかな詩情が自然に漂う美しい曲となっています。もともとはピアノ連弾のために作られた曲ですが、ビュッセルによって編曲された管弦楽版により演奏します。

#### ●第1曲/小舟にて

単独で演奏されることもよくある、大変よく知られた曲です。分散和音の上に8分の6拍子の揺れるようなメロディーが流れる、親しみやすい曲です。最初に主旋律がフルートで演奏され、次々と別の楽器で演奏されます。中間部は少しダイナミックな感じになります。

#### ●第2曲/行列

この曲も最初はフルートです。3度の音程の和音が平行して進行する主旋律の動きには弾むような楽しい雰囲気があります。中間部では下降していくような対照的な動きを見せます。

#### ●第3曲/メヌエツ

序奏に続いて出てくる典雅な主旋律は、ドビュッシーの歌曲「艶めく夏」の旋律をそっくり取り込んだものです。ルイ王朝風の舞踏風景を描いています。中間部も優雅な雰囲気があります。こちらは最初にファゴットで演奏されます。

#### ●第4曲/バレエ

ルイ14世が踊ったというバレエをイメージして作られた曲です。快活ではずむような曲調がとても印象的です。中間部はテンポを落としワルツになります。コーダはテンポがアップして華やかに結ばれます。

## ブラームス 大学祝典序曲 作品80

Johannes Brahms  
Academic festival overture Op.80

### ■ブラームス:大学祝典序曲 作品80

ブラームスがこの曲を作曲する動機となったのは、称号の贈答でした。1876年、イギリスのケンブリッジ大学から名誉音楽博士の称号を送りたいという通知があつたが、英語が苦手な船に乗ることが嫌いだつたブラームスは、この称号を受けることを辞退してしまいます。それから3年ほどたち、今度は Breslau の大学から名誉博士の称号を送りたいという通知がありました。ブラームスは返礼としてこの曲を作曲することになりました。タイトルからは大学から祝典のために委嘱されて作曲された様なイメージがありますが、そのような事実はなく、タイトル自体もブラームスが付けたのではなく専属の出版会社によるアイディアだったとも言われています。この曲は、ブラームスが以前ゲッティンゲンで学生たちと交わした頃に覚えた楽しい学生歌による自由なソナタ形式の演奏会用序曲です。単なる学生歌の寄せ集めによる接続曲ではなく、学生歌というありふれた親しみやすいメロディーを使い、それをソナタ形式という形で提示・展開することで、しっかりと構築された楽しみにあふれた楽曲です。

## 休 憩

## ブラームス 交響曲第2番 二長調 作品73

Johannes Brahms  
Symphony No.2 D major Op.73

- 第1楽章: Allegro non troppo  
第2楽章: Adagio non troppo - L'istesso tempo,  
ma grazioso  
第3楽章: Allegretto grazioso (Quasi andantino)  
- Presto ma non assai - Tempo I  
第4楽章: Allegro con spirito

### ■ブラームス:交響曲第2番 二長調 作品73

ブラームスは交響曲第1番を20年以上もの歳月をかけて完成させましたが、本日演奏する第2番は1877年にわずか4か月足らずで一気書き上げられました。この曲は全体を通して田園的で明るい雰囲気の中に、それは作曲時に避暑を兼ねて滞在した静かな田舎の風光に大きく影響されていると言われていて、また長い時間をかけて初めての交響曲を完成させたことによる重圧と緊張から開放された心境を反映して、前作に対しこの第2番は自由でのびやかな曲想を持っています。初演は1877年12月30日に、ウィーン・フィルハーモニーの第4回定期演奏会の時ハンス・リヒター指揮で行われ、第3楽章がアンコールされるほどの好評を受けました。

#### ●第1楽章/アレグロ・ノン・トロツポ 二長調 4分の3拍子

主題の提示部、展開部、再現部の三部分からなるソナタ形式の楽章です。冒頭の低弦による「ニ-嬰ハ-ニ」の三つの音は第1楽章だけでなく曲全体に現れる基本となる音の動きで、この動きから派生した旋律が全曲を通してあらゆるところから出てきます。

#### ●第2楽章/アダージョ・ノン・トロツポ 口長調 4分の4拍子

長調ではあるものの、もの悲しく、口長調の響きが美しく深遠な三部形式の楽章です。楽章のクライマックスでは、この曲中にはあまりないブラームスの音楽特有の厳粛で深刻な部分も見られます。

#### ●第3楽章/アレグレット・グァツィオーソ(クァジ・アンダンティーノ) 口長調 4分の3拍子

A-B-A-C-A-コーダという構成で、オーボエの素朴で親しみのある主題から始まります。BとCはAの主題の変奏で、ブラームスはBからA、そしてCからAへ切れ目なく自然に戻るように、さりげなく凝った工夫をしています。

#### ●第4楽章/アレグロ・コン・スピリット 二長調 2分の2拍子

二つの主題によるソナタ形式の楽章です。時折平静を装うものの、全体に渡って、まるでブラームスが歓呼しているかのような明るい曲想を持っています。最後のコーダは息つく暇もなくとても華麗で、演奏者は一人残らず高揚してしまします。